

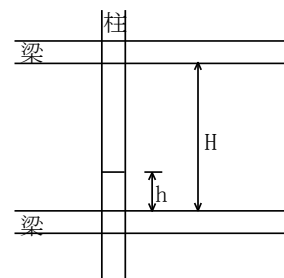
マニュアルから抜粋

○十字形断面柱…特に指定のない場合で、ダイアフラムと梁の材質が同じで水平ハンチがない時、Lが梁スパンの1/10あるいは梁せいのどちらか小さい方より短い場合、通しダイアフラムとして取り扱う。

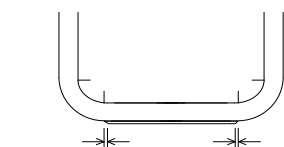
○最小目盛は0.5mmが一般的であるので、小数第一位は目視で読取り、2捨3入または、7捨8入して、0または5として記録することとした。個々の測定結果から、その継手の食い違い又はずれを評価するための食い違い量又はずれ量の算出結果の数値は、小数第二位を四捨五入して小数第一位まで表記することとした。

○食い違い仕口のずれ補強マニュアルでの適用可能な柱継手位置は以下の範囲とする。

$$0.2 \leq \frac{h}{H} \leq 0.8$$

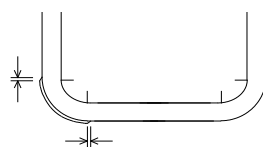


○成形角形鋼管柱の補強肉盛溶接の始末端部



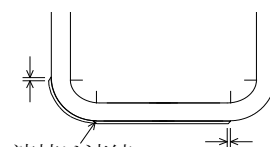
平板部端より10mm控える

○平板部のみ



角部を越えて10mm以上で
擦り付ける

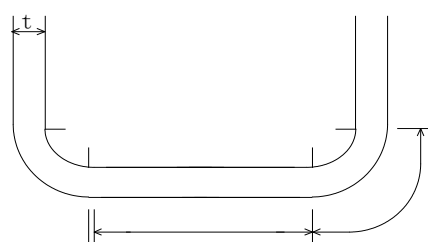
○角部のみ



溶接は連続
させる

○平板部+角部が隣接

○成形角形鋼管柱の平坦部と角部の範囲



角部
BCP : $7 t \pi / 4$
BCR : $5 t \pi / 4$
STKR : $6 t \pi / 4$

平板部
BCP : (柱幅) - $7 t$
BCR : (柱幅) - $5 t$
STKR : (柱幅) - $6 t$